あの日、広島で起きたこと

半田市立乙川中学校　２年　田村　衣

１　「地獄を見た」という言葉

戦争の悲惨さを最も感じたのは、広島平和記念資料館と、実際に被爆された方の講話です。資料館では、原爆によって多くの人の生活や命が奪われたことを、写真や資料を通して知りました。さらに、被爆された方から直接お話を聞き、「地獄を見ました。地獄にあいました」という言葉が特に心に残りました。「人がやることじゃない」という言葉からも、原爆の恐ろしさや悲惨さを強く感じました。

２　「何もない場所」から「平和を伝える場所」へ

私が最も復旧・復興を感じたのは、資料館の中にあった平和記念公園が建設されていく過程の写真です。原爆によって何もなくなった場所に、平和記念公園や平和記念資料館、原爆死没者慰霊碑などが少しずつ造られていったことを知りました。

今では多くの人が訪れ、平和について考える場所になっていることが深く印象に残りました。広島が復興するだけでなく、平和を伝える場所にしていった人々の強い思いを感じました。

３　広島平和研修で学んだこと

今回の研修では、広島に原爆が投下された背景についても学びました。私はこれまで広島に原爆が落とされた理由を深く考えたことがありませんでした。しかし、被爆された方のお話から、東京や大阪などの大都市が次々と爆撃される中、広島は無傷のまま残されていたことや、原爆という新兵器の効果を確かめるため、爆撃を禁止されていた都市の一つだったことを知りました。「広島に原爆が落とされた」という事実だけでなく、その背景まで知ったことで、教科書の中の「過去の話」という認識ではなくなりました。今では、自分たちがこれから平和を守っていくという「自分事」として捉えるようになりました。

４　あの日を知らない私たちが、未来へできること

今回の研修を通して、平和は当たり前に続くものではないと感じました。私たちは戦争を経験していないからこそ、被爆された方から聞いた話を忘れず、次の世代へ受け継ぐことが大切だと思います。今回聞いたことや感じたことを自分だけの思い出にせず、家族や友達にも伝えていきたいです。そして、広島で学んだことを心に刻み、平和について考え続けることが、今の私たちにできることだと思います。